

山武郡市 議会議員研修会

7月1日、山武市成東文化会館のぎくプラザで、山武郡市議会議員研修会が開催され、法政大学法学部教授 廣瀬克哉氏の「議会基本条例10年を迎えて～これからの課題を展望する～」をテーマに講演が行われました。

議会基本条例は、北海道栗山町が平成18年5月に全国で初めて制定しました。この条例は、町民に信頼され、存在感のある議会を構築するための、議会改革の一環として始まりました。

これまでの議会改革は、本会議・委員会の傍聴や議会だよりの発行等はありませんでしたが、町民の関心を揺り動かすまでには至っていないのが現状です。

今、議会報告会は全国的に広がっていますが、参加者は多いものの、2回目以降は減少してまいります。その要因は、会議の結果報告が主であり、この議案の賛否が何で分かれたのかを説明していないことが考えられます。議会は町民とのコミュニケーションを図り、町民からのご意見を引き出し議会への「入り口」を多様に設け、そして議会を知って頂く手段が議会報告会です。

今後は、町民の最も身近な議会及び議員が、従来の在り方を改革し、その本来の機能を十分発揮することが求められます。このように、議会運営の基本事項を定めることにより、町政の情報公開と町民参加を基本とした、町民との自由闊達な討論を進め、「住民に開かれた議会づくり」を目指していくことが肝要であると教えられました。

今回の講演では、議会改革を質し、情報公開と住民参加が根幹をなすものであることを再認識した大変に有意義な研修会でした。



法政大学法学部
廣瀬教授の講演

今月の表紙「ノハナシヨウブ」

ノハナシヨウブ（アヤメ科）は、ハナシヨウブの原種で千葉県重要保護生物の一つです。

花期は、6月、赤紫色や濃紫色の花を2～3個付け、湿地に生育します。

絶滅が危惧される植物が多く生育するこの湿地は、多古町と横芝光町との境界で、栗山川と借当川が合流するところにあり「多古光湿原」と呼ばれています。

ここでは、世界で唯一のカヤリグサ科植物のムジナクグが発見されるなど、世界に誇れる貴重な植物の宝庫です。

編集後記

皆様、いかがお過ごしでしょうか。風鈴の音、蚊取り線香の匂い、夜空の花火に日本の夏を感じる今日この頃です。

いつも議会だよりをご覧いただき、誠にありがとうございます。

毎回、毎回、どうしたら皆様に愛され、読みやすい議会だよりをお届けできるのかと広報委員一同、一所懸命に努力しているところでございます。

収穫量が全国4位であるわが町の「ねぎ」に負けぬよう、これからも「議会の見える化」を目指し、議会がより身近に感じていただけますよう頑張っております。

暑さ厳しき折、皆様のご健康・ご多幸を心からお祈り申し上げます。

広報委員一同